

2020. 1. 16 (木)

「図書館のあい方」って？

見て感じたこと 参加者: 18 名

2016 年四月開館。図書館、文化ホール、子ども広場、生涯学習センターの複合施設。運営は民間企業六社が指定管理で受け負っている。

大和
シリウス



大和シリウス図書館 1 階風

★図書館 1 階に入るとコーヒーの香が漂って…。待ち合わせの時間つぶし用の本がおしゃれに配置され、仕切りのないコーヒー店かホテルのラウンジみたいな空間。★2 階は書籍少なく市民交流ラウンジとなっている。ラウンジには有料デスク（1 時間 100 円回数券も発行）やソファ、グループで話せるコーナーもあり、ネット環境も抜群の一角がある。★3 階は「こどもの国」。児童書も並ぶが、有料子どもの遊び場が人気（有料保育所 1 時間 500 円）。★4 階は健康コーナー血圧や血管年齢測定機器等があり、保健師がいる時間帯は健康関連のアドバイスも受けられ、健康関連の本が配置されている。◎4 階と 5 階は比較的書架が集中するが、1 階から 5 階までと本がバラバラに配置され探しにくいという声も。全体的に子どもでも誰でも気軽に行ける雰囲気ではない。6 階は生涯学習センター。有料のガラス張りの会議室より、誰でも自由に使える交流フロアが人気
1 階は、9:00~22:00、2~5 階は、9:00~21:00、6 階は、9:00~21:30、休み：年末年始

図書館っていうより居場所？

●各階とも書架は統一されインテリアの要素が強い。本の間を楽しく逍遙する楽しさはうすい。●スタッフはビジネススーツでビシッと決めて、本について気軽に相談できる雰囲気ではない。●この図書館スペースは破格の広さ。でも、図書館というより居場所スペースって感じかな？

●図書館のバックヤードでの仕事は、どうなっているのだろうか？

●資料を探す目的の図書館利用者にとって使いやすいの？

●とにかく、館内照明がちょっと暗いな。本の背文字が目飛び込んでこない！このスタイルに好感を持った方もあるが…

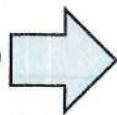
中央林間図書館

●ラウンジの雰囲気なので、照明が暗い。●学習室が 20 席余り。●スペースとしては手狭。たくさんの本は置けないが、本の入れ替えはあるのだろうか？●調べ物をするレファレンスカウンターがあるとは思

えない。せいぜいお問い合わせに答えるところ、という印象。⇒本よりコーヒーが主役？

2018 年分館として再開。市内にある図書館の一つ。面積 760m²。仕切りなしの高級コーヒー店との一体感を強調、図書館というよりはラウンジ。駅近でスーパーの 2 階。ちょっと一服するところ？若い人が多い。

町田市立中央図書館



商店街の一角、生活の延長で使える。本や視聴覚資料が主役、新聞・雑誌を読みに来る人は、生活の一部にもなっている！

●明るくて、あったかい閲覧室の雰囲気は気持ちがほぐれる。●ここは、本や視聴覚資料が利用をお待ちしてますって語りかけてくる。●配架にも工夫がされている。ちょっとしたプチ展示や障害者コーナーも市民の手が入り、そこここに市民との協働でサービスをつくりあげている雰囲気がよくでている。●長居したいなーと感じさせますね！

でも、43万人市民がだれでも図書館を生活の一部にするには、8館ではまだ空白区がある。歴代館長は町田市の図書館施策は道半ばだと強調する

高いサービスを維持している町田図書館にも委託化の波

★1月14日、町田市図書館協議会で、図書館への指定管理導入が公表された。地区館だけでなく中央図書館も民間に？図書館の理想を目指してきた町田市の歴代館長や市民の落胆は大きい

公共施設再編に対峙し…「市民版公共施設再編」を提示

★2017年、町田市の図書館計画を大きく変える「町田市5か年計画」が策定され、公共施設は老朽化したら、つくり、減らす方向が打ち出される(総務省の意向に添う)。★現在人口43万人の町田市は、ようやく8館まで図書館を増やしてきたが、2カ所の統廃合が打ち出された。★2018年「まちだ未来の会」が中心になって「市民版—公共施設再編計画」を作成。そこには、中学校と同じだけ、全部で20館の図書館をめざし、あと12館図書館をつくることが謳われている。



くつろげる雑誌コーナー



市民手づくりのミニ展示

巷ではやる指定管理とは？大和市は、シリウスも中央林間図書館、生涯学習施設も「やまとみらい」という民間6社が運営主体。開館時間やイベント、ホームページなどで成果をアピールするが、全国の指定管理導入館では、5年も経つと経費が直営より増え、継続性のない身分の司書の技量が低下すること等が研究者から報告されている。そして何より、本の貸出点数等サービスが減少する。市民の知りたい意欲を掘り起こし支える機能がなくなる、ということが問題となる。

では、川崎市の場合は？

■平成3年ころの川崎市の図書館構想→中央図書館構想を調査検討。そこでは中央館＝地区館＝分館 というネットワークを形成し、川崎市の図書館システムの具体的な構想・計画・経営方針を策定しようと試みた。■当時、川崎市の構想は、中央館と5区で地区館5館に分館9館、配本所3カ所、自動車文庫3台。しかし、いつの間に凍結。■その後、宮前区と麻生区が分区。地区館は7館になったが、現在分館5館、閲覧所1カ所、自動車文庫1台である。■こうあって欲しい図書館構想→川崎市では、図書館空白区といえる地域が解消せず。宮前区も、23万人に対して1館のみ。ちなみに町田市の基準で考えると、宮前区には8中学校あるので、本来8カ所に図書館があれば、市民は日常的に図書館を使えることになる。鷺沼1ヶ所ではね…。